

生駒市子ども子育て支援懇話会 第3回会議録(要点筆記)

1. 開催日時 平成 25 年 3 月 28 日(木)午前 9 時～午前 10 時 40 分

2. 開催場所 生駒市立南幼稚園リズム室

3. 出席者 (参加者)別紙参加者名簿参照

(事務局)池田福祉健康部長、峯島教育総務部長

吉川こども課長、真銅教育総務課長

奥田こども課課長補佐、水野こども課指導主事

浅井教育指導課指導主事

4. 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 5 名

5. 議事内容

(1)座長挨拶

(2)事務局より資料に基づき説明。

事務局より、配布資料に基づき、(仮称)南こども園の創設に係る保護者からの意見について説明を行う。

(3)討議内容

座 長:ただいま説明の中で、まず施設整備関連について何か意見や質問はないか。

参加者:保育園保護者会では、第 1 回と第 2 回で十分意見を出したので、特にない。

座 長:移転の際は、小学校の東校舎を利用するということだがスペースは十分確保できるか。

参加者:移転中の 1 年間、幼稚園行事と小学校行事が重なる場合などは、小学校の教育課程が優先されるが、小学校も幼稚園に対しては、譲れるところは譲って、幼小の交流も進めていきたいので、行政側からも最大の配慮をしてほしい。

参加者:保護者は、移転中の保育内容や保育環境を心配している。移転中も、南幼稚園が現在取り組んでいるような行事、たとえば近くの畑で野菜を作ったり、作った野菜を使って料理したり、プールあそびなどができ

るように計画をすすめてほしい。

参加者:小学校では、7クラス分の教室と職員室が確保されるということだが、未就園児のプレ保育をする部屋、絵本の部屋、教材庫、運動会の道具を収納する部屋、リズム室の代わりになる部屋等を確保できるよう配慮してほしい。

座 長:ここで共通認識としてほしいのは、小学校を貸すとか借りるということではなく、平成28年に南こども園が開園するまでの3年間の体制づくりが重要であり、みんなが主体で考えないといけない。道具をどこに置くとかの意見があったが、これは幼稚園だけの問題ではなく、小学校・保育園・教育委員会・こども課を交えた全体の問題と捉えて、今後の準備段階の中でみんなが主体となって煮詰めていかないといけない。今後出てくる大きなことから運営していく中での細かいことまでよく協議して、煮詰めていけばよい。

座 長:保護者からみて幼児が小学校を使うのはかわいそうという意見もあるようだが、全く違う環境で過ごすことになった子ども達にとってはある意味関心があるかもしれないし、小学生と一緒にになるということは大人になったときのよい生活体験となっていくと思う。私たちが大事にしたいのは、その中で子ども達が健やかに育つように大人たちが考えていくことだと思う。次に、クラス編成と職員関連について何か意見や質問はあるか。

参加者:保育所では、消毒殺菌を天日干し等で行っているため保育士に負担がかかっているように思うので、設備面に配慮してほしい。

参加者:3歳児は複数担任となっているが、障がい児加配については、どう考えているのか。

事務局:3歳児クラスについては複数(2人)担任制なので障がい児加配は考えていないが、4・5歳児クラスは、幼稚園では加配職員が学年に一人であるのに対し、保育所ではクラスの状況に応じてクラス毎に加配職員を配置しており、こども園になっても同様に考えている。

座 長:現在の保育所における基準を大事にしていくということか。

事務局:ただし、加配を要する幼児が短時間児の場合は、対象幼児が降園した後は加配職員も外れることになる。

参加者:学級担任制になると、長時間児に対する職員配置はどのようになるのか。

事務局:現在、みなみ保育園では早朝で4名、延長で5名の職員を担任とは別に配置している。

座 長:基本的には、クラス担任が保育・教育するという事でよい。

事務局:みなみ保育園では、月に1〜2回程度早朝と延長の当番の日があるが、こども園になった際も早朝と延長の間の当番が必要である。短時間児と長時間児の共通時間にはできるだけ担任がいるような当番体制を検討したい。現在も、3歳以上児のクラスは複数担任となっているので、どちらかの職員はいるようにしている。こども園になっても、延長をする幼児は決まってくるので、対応可能と考えている。

座 長:これまでの幼稚園・保育所に対する概念があると思うが、南幼稚園とみなみ保育園の実態を踏まえて、この1年くらいの間で南こども園としての勤務体制をシュミレーションして考えていくことが大事だと思う。クラス毎に先生がころころ変わるのではなく、担任として据えたいうえで勤務体制を協議していけばいい。月に2回くらい当番がまわってくるかもしれないが、今まで幼稚園では無かったので当番なんてあり得ないというのではなく、こども園をつくっていく中で、担任としての子どもの見方がおろそかにならないように考えていけばよい。現在も、担任が研修や休暇でいない時は、フリーの講師が入ったり主任が入ったりするので、例外は別に考えて、常時の体制をみていかないとけない。

参加者:保育園の先生が3歳以上の担任で、幼稚園の先生が3歳未満児の担任になることもあり得るのか。

事務局:開園後何年かは不安もあると思うので、幼稚園の先生には3歳以上児の担任にする予定だが、その後は3歳未満児を担任することもあり得る。幼稚園の先生にも早朝や延長の当番もやってもらう。

座 長:事務局も色々な配慮を考えているようなので、心配はないと思う。
次に、保育環境について何か質問・意見はないか。

参加者:南幼稚園では、現状では預かり保育の利用者が少ないが、預かり保育利用児が午後2時から4時までの時間帯をどのような場で過ごすのか。

事務局:預かり保育の幼児は別の部屋での保育となる。

参加者:預かりの幼児が1人だけでも、別の部屋で単独保育するのか。

事務局:現在も同じ状況だ。

事務局:午前9時から午後2時までの共通時間の中で、1時半くらいから短時間の幼児は降園準備、長時間児は

昼寝の準備をするので、早くから長時間児がいなくなるわけではない。新しいこども園になることにより、預かり保育の利用も増えるかもしれないし、短時間児に不安を与えないように配慮していく。

参加者:現在、実施している午後2時半までの園庭開放は継続するのか。

事務局:続けていきたい。

座 長:こども園用のデイリープログラムをしっかりと検討して作り上げていかないといけない。

参加者:こども園は13クラス編成ということだが、教室数に余裕はあるのか。

事務局:施設としては15教室程度を考えており、教室以外にもいくつかの部屋をつくることになる。

座 長:PTAについて、幼稚園の保護者ばかりが役員をしなければいけないのではとか、保育園の保護者では時間的に役員会への参加が無理だとか、反対に保育園の保護者の時間に合わせると幼稚園の保護者には時間的に無理だとか、色々な意見が出ていたが。

参加者:保育園では愛育会という保護者会があり、月に一回のペースで土曜日に役員会を開いて話し合いを行っているが、ほとんどの役員が参加しているので、心配はないと思う。ただ、愛育会の会費の残金を、こども園になった際にどう扱うことになるのかが心配だ。

参加者:幼稚園では、2学期に入るとほぼ毎日のように集まっていて、運動会について保護者と先生が一緒になって準備したり、今後の行事等について話し合ったりしている。家庭教育学級やPTAの教育大会が今後どのようなのか知りたい。

事務局:こども園も教育(学校)であるので、市P(市PTA協議会)には入っていただきたい。家庭教育学級も市からの委託事業であり、公立幼稚園の流れから続けてほしい。就労している保護者が毎回参加するのは難しいと思うが、小学校でも就労している保護者と就労していない保護者がいてのPTAなので、小学校ではどういう分担で活動をしているのか。

参加者:小学校では、色々な家庭環境の児童が集まっている。PTA活動は、保護者が働いていることを前提に行っている。土曜日に集まったり、平日に少し時間をとって集まる場合はできるだけ回数を減らす等の工夫をしている。お互いの立場を尊重していて、一定の人に負担が集中するということはない。1人の子どもに

ついて6年間の中で1回は役員をすることになっている。

事務局:保育園でも運動会はするわけだから、今度はこども園としての運動会になるだけなので、幼稚園と保育園の運動会がうまくミックスされて違う持ち味のものになると思う。

座 長:今後、PTAとしてどんな活動をしていくのか小学校を参考に検討していくことが、この3年間の課題だと思う。

事務局:PTA活動は、市P(市PTA協議会)や単P(各校・園のPTA)がある以上続けてほしい。家庭教育学級は市の委託事業だが、こども園がそれは独自で行うということなら、市との協議事項となる。

座 長:保育園の方は、保護者が働いているのでなかなかそういう活動ができなかったけれど、家庭教育学級のような場で学びたいという気持はあったと思う。全員の参加は無理かもしれないと一緒に学習する機会をどういう形で設けていけばよいかを考えていく必要があると思う。無しになるとか止めようというのではなく、どう位置付けながら継続していくかの問題だ。運営していく上での問題がたくさん出てきているが、進む方向は決まっているので、3年後の開園に向けてどうしていくか体制づくりも含めて考えていってほしい。

参加者:こども園では、300人規模の運動会となる。今までのイメージからすると課題が多いので、運動会そのものも変えていかないといけないと思う。低年齢児もいる環境の中で、大規模化すればするほど安全面への配慮が課題となってくると思う。

参加者:小学校では色々な立場の児童がいるので、お互いの違いを認め合うことがベースになり重要だが、新しいこども園ができることにより、就学前からお互いの立場を知り合えるようになるというのはありがたい。保護者についても同様で、地域で同じように子育てしている保護者が、働いている、働いていないに関わらず保護者同士のつながりを深めあっていけると思う。また、小学校では1年生から6年生までの縦のつながりを大事に考えているが、こども園になることで縦のつながりが増えることになると思うので、それもメリットになる。

座 長:こども園になることは、心配すること多い半面、今までなされていない子どもにとってのメリットもたくさんあると思う。0歳から6歳までの子どもがいることにより、6歳の子どもが0歳の子どものことを見守りながら大きく成長していくのだと思う。生駒市全体がこども園の方がいいということで、こども園に変わっていくかもしれないが、それが小学校への接続も含めた実践として出来ていければ、これからの社会の中で就学前教育がどうあるべきかという大きな提案になっていくと思う。この3年間で知恵を出し合って、特色のあるも

のをつくってほしい。

参加者:今後、みなみ保育園と南幼稚園の職員が交流をもっていくということが重要だと思う。お互いの保育内容を見に行くとともに、その後に話し合ってお互いをよく知ることにより、スムーズにこども園に移行できるようにしていきたい。

座 長:これは大事な問題であり、きちんと研修をしていく必要があると思う。また、それによって先生もさらに磨きがかかって素晴らしい保育につながっていくと思うので、研修体制の整備を速やかに整えてほしい。

参加者:小学校運動場の遊具は小学生を対象としているので、幼稚園児の安全面には十分に配慮するとともに、幼稚園児が遊べるような簡単な遊具の設置も検討してほしい。

参加者:遊びの際は、保育園の園庭も活用すればよい。

参加者:現在行っている幼保の人事交流研修の発表会で、実際に研修に行ってみたら知らなかったことが多かったという発表があった。今後、子どもにとってどんな力を育てていけばよいかを、どこをどのようにすり合わせていくかをお互いに知恵をしばって考えていくことが重要だ。現場の意見を吸い上げて、より良いこども園になるよう、早くから一緒に考えていく場を設けてほしい。

事務局:今後、現場の先生を交えてワーキンググループをつくって、カリキュラムや施設について検討していきたいと考えている。

座 長:保護者の色々な不安や意見がある中で、子どもの育ちの見方や安全面ばかりを気にせずに子どもはもっと素晴らしい力をもっているということをわかるための、保護者向けの勉強会のようなものがあればよいと思う。
それでは、事務局から今後の方向性について何かあるか。

事務局:担任の件については、今後、ワーキンググループの中でタイムスケジュールを検討して提示したいと思う。今回の意見を整理して、保護者向けの説明会を開いて回答していきたい。そして、その時に出た意見を踏まえて、今後また、今回のような懇話会を同じような形で開催したいと考えている。

事務局:本懇話会については、要綱上の設置期限が平成 25 年 3 月 31 日までとなっている。次回からは、懇話会の名称もわかりやすいように変更したうえで、新たに要綱を制定して、新たな名称で懇話会を開催したい

と考えている。団体からの参加者は、4月以降の役員の改選等で変更になる場合は事務局に連絡してほしい。

事務局:現場にいる当事者も参加しているので、自分ならこうするというような解決策があれば、用意してきてほしい。

午前10時40分終了